

ゲイ男性のパッシングとカミングアウトの実践における困難

ーライフストーリーを通じて

A Difficulty in The Practice of Passing and Coming-out of Male Gay — Trough the Life History

中谷 康哉¹, 鄭 暎恵¹, 銘苅 純一²

¹人間関係学研究科社会学専攻, ²人間生活文化研究所

キーワード: セクシュアリティ, ゲイ, ライフストーリー, アイデンティティ

1. 研究の目的

近代以降に成立したセクシュアリティという概念は、アイデンティティを持つ主体として同性愛者を立ち上げた。日本におけるゲイ男性の運動は、1980 年代後半～90 年代にひとつの興隆を迎える。しかし、いまだ社会の中での偏見や差別は根強い。

ゲイ男性が異性愛を基盤とする社会との交渉をする実践として、自己のセクシュアリティを告知する「カミングアウト」と、告知しないで異性愛者を装う「パッシング」が考えられる。その中で、たとえばゲイ、バイセクシュアル男性が異性愛者役割葛藤の中で精神的健康を悪化させていることは統計的に実証されている一方、逆にカミングアウトをしても自尊心が向上しないことも示されている。つまり、カミングアウトすることの努力も、それにとまなうストレスも大きいと考えられる。

当事者が、どこで、誰に、カミングアウトするかパッシングするか、という選択は人それぞれだが、それらの行為に付与される意味は非常に多様である。また、精神的健康の度合いもさまざまで、一概にどちらを選択したら精神的健康が保たれるとも断定できない。当事者は、パッシング/カミングアウトを組み合わせたり、それらの実践にさまざまな意味付けをしながら自己の生を合理化して保っている。本論文では、当事者がそのことをどのように意味付けし、語るのかを調査し、現代日本に生きるゲイ男性のありようを記述することを目的とする。

2. 活動実施報告

本研究のための調査では、首都圏および関西圏に居住する 11 人のゲイ男性にインタビューを行った。その際、本論文の主旨である「カミングアウトとパッシング」に関する調査であることを明示すると同時に、調査協力者のライフストーリーなども含め自由に語ってもらうように依頼した。調査対象者への接近は、身近な友人と、友人に紹介された人物に、機縁によってインタビュー調査に応じてもらう形となった。

調査協力者の同意を得て録音したインタビューの内容はテープ起こしを行い、トランスクリプトを作成した。その上で、調査協力者たちがカミングアウトとパッシングについてどのような意味付けを行っているかという語りを抽出し、共通する語り、あるいは異なる語りに注目し、当事者の「カミングアウト」「パッシング」に対する意識、またそれらの行為に対する意味付けにどのような傾向があるかを分析し、研究代表者の修士論文という形にまとめた。

3. 研究目標の達成状況

11 人のゲイ男性に、1 人当たり 1～2 時間程度のインタビューを取ることができた。サンプル数としては妥当であるといえるだろう。

分析に際しては敢えて特定の方法論には依拠せず、対話のなかで研究代表者の経験や感覚とすり合わせながらその都度問題を抽出し分析していく手法をとった。研究代表者の経験もつねに参照しつつ、対話のなかで相互理解が生成されていく過程を記述した。

4. まとめと今後の課題

パッシング/カミングアウトについての聞き取りを通し、ゲイ男性のアイデンティティが世代とともに変遷し、多様化していることが明らかになったが、マイノリティとしてのゲイ男性が、異性愛主義的な社会の中でどのように自己の生に関する意味資源を獲得し、かつ社会にインパクトをあたえていくのかは大きな課題である。ひとつの属性に深く自己を投企することなく臨機応変に複数の関係や行為を選択できるようにすることは、後期近代の複雑な自己を生きる戦略であるともいえるが、社会運動を成立させる契機としては脆弱である。逆に言えば、そのような複雑な自己を生きなければならないことの困難さもあげられる。また、2000 年代以降になって、(ゲイ)コミュニティとゲイ・アイデンティティの接続が不明瞭になっていることも指摘されており、今後ゲイ男性のアイデンティティがどのようにエンパワーメントされるのかに関しては探究が必要である。

社会的少数者として、差別や偏見など、異性愛者の経験しないさまざまな困難に晒されるゲイ男性が、その生における意味資源を、複雑に変遷するアイデンティティの様相と関連してどのように獲得していくのかという課題をあげることができるだろう。

5. 研究成果

1)公開講座・研究会

[1] 修士論文発表会, 2012.2.20 9 時～16 時, 大妻女子大学千代田キャンパス